傍観者

檀 敬

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

傍観者

【Ｎコード】

Ｎ９４８４Ｓ

【作者名】

檀　敬

【あらすじ】

遠くから太陽系を、地球を、その興亡を全て観測していたシリコンの異生命体が、長く宇宙に生きた者の達観を独り言のように呟く、ちょっと哀愁を誘うストーリー。

（前書き）

五月になって、いよいよ本格的に「空想科学祭２０１１」に向けて動き出そうと。
その前哨として、硬質なＳＦを投稿しておこうと思い立った。
僕への叱咤激励として。

我々は「傍観者」なのだろうか。
我々のように長く存在することは、奇跡のようなことらしい。私はその思いを更に強くした。これまでの研究結果もそう示している。
我々は、たくさんの銀河を渡り歩いた。そして、たくさんの恒星を探査し、他の生命体を探した。

暑い時期を過ぎて誕生した恒星系では短命の生命体、短期間の文明が多いようだ。
温度が下がったことは、炭素生命体を生み出すのに都合がよかったようだ。炭素は、我々のシリコンより化合物のバリエーションが多い。
だから、たくさんの炭素生命体に出会った。だが、彼らの命のともし火は、惑星や恒星の影響で直ぐに吹き飛んでしまう。
とりわけ、この銀河の、オリオン腕三光年に位置する、黄色い恒星に芽生えた文明は象徴的だ。この恒星系は固体惑星とガス惑星を持っていて、外から六番目の惑星に炭素生命体が存在していた。
この惑星は、激しい移り変わりをした。核酸による複製物質で子孫を残すのだが、基本的には生命単位の複合で成り立っていた。
つまり、最小(セル)単位の中に複数の生命単位が、共生状態にあったのだ。更に、セルが形態分化、役割分化して、複雑な生命体を形作っていた。
それが六億サイクル内で何十億というバリエーションを生み出し、些細な恒星、惑星の変動によって興亡を繰り返してきた。
巨大な生物が闊歩した時代もあったが、一番印象的なのは二足歩行生物だ。たった一万サイクル程で、惑星の大気圏から脱出したのだ。自惑星の衛星に降り立ったし、ガス惑星まで探査装置を送り出していたのだ。

私は小躍りしたものだ。我々に次ぐ存在になるかも、と期待もした。だが私は、同時にその危うさも感じていた。
彼らはたった一万サイクルでここまで来た。彼らの発達はいささか急ぎ過ぎのように思える。決して「急ぎ過ぎ」がダメな訳ではない。その発達進度のアンバランスが問題なのだ。

我々は現在、彼らのサイクルで言えば、七十二億サイクルでユニバースの半分ほどを知り得ることになったのだが、一万サイクルではまだ文明とは言えなかった。
しかし、我々は意思伝達の方法を発達させた。それが、文明の機軸だったのだ。
我々はシリコンを基底とした生命体なので伝達は瞬時、しかもプロトゴルさえ確立すれば同種の生命とのコンタクトは分けなく可能だ。惑星の全ての生命とのコンタクトを完了し、生命の総体としての「意思」は出来ていた。
その後の発達はゆっくりだったが、惑星や恒星に囚われない生命と文明の自立を果たした。
そしてユニバースの温度が冷えてきて、我々の動きが鈍くなり、新しい環境に対応して生命機構を発達させ、ユニバースの探査を続けている。

話が脱線したようだ。
一万サイクルの六番惑星の話だったな。
彼らは我々と似た生命機構を作り始めた。彼らは『コンピュータ』とか呼んでいたようだが。我々のレベルでいうと「昆虫」に値する程度の機能ではあったが。もっと「コンピュータ」が発達してくれれば、我々とコンタクトが出来たかもしれない。
だが、それは望めなかった。
私は非常に落胆した。

彼らには彼らの行動原理があったようだが、それは、自己矛盾を抱えていた。
彼らは、自らの手で自らの生命環境を破壊し続けたのだ。環境破壊が惑星の気候変動を誘発し、惑星全体の、ほとんどの生命体を絶滅させた。
私の興味はそこまでだった。

やはり、我々は「傍観者」なのだろうか。
いつか、我々とコンタクトできる生命体が生まれ、育つことを切望している。
ユニバースが『真空』で満たされる前に。

（後書き）

僕がテーマにしている「地球を傍観する、太陽系を傍観する」を書いてみました。
この生命体は、他の物語でも登場させています。
その物語は未完なので、いつか投稿できるといいと思っています。
感想をいただけたら幸いです。

初　出：「一瞬の煌き・文明偏」ｌｉｖｅｄｏｏｒ－ｂｌｏｇ「憂鬱」２００７／１１／２７
再掲載：「一瞬の煌き・文明偏」Ｙａｈｏｏ！ブログ「憂鬱ＦＣ」２００８／１０／１４

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9484s/

傍観者

2011年10月4日15時33分発行